

ビットコイン騒動とは何か

【そもそもビットコインとは何か】

ビットコインとはブロックチェーンというシステムを利用した仮想通貨のことである。ビットコインの本質は、このブロックチェーンがわからないと何かすらわからないのでそこを簡単に説明しよう。ブロックチェーンとは皆で監視しあう分散型のシステムの事である。

分散型のシステムは世界中に点在するパソコンにデータを置くことで、壊すことができないネットワークを作る技術の事。その分散型のネットワークを認証システムをすれば、例えば国が管理せずとも、証券取引所が不在で、も信憑性のある合意を達成させることができるつまり信用供与が出来る、という事になる。

この分散型システムがどれだけ強固に出来るかというのがポイントになるが、本格的に分散システムが稼働してしまえば、システムを止めるには地球全体を破壊させるほどの隕石が宇宙から降ってくるか、全世界の機械類が同時に破壊されてしまうほどの大規模な太陽風に襲われるレベルの災害が必要がある。何故なら、データを保持する全てのパソコンを壊さなければ、ブロックチェーンは複製しながら復活することが出来るからだ。

これは破壊的なテクノロジーで、ブロックチェーン誕生以前は、全ての取引はVISAやPayPalや銀行などの第三者機関を通して行わなければならなかった。しかしブロックチェーンを使えば、第三者機関を通さずにして取引ができる。このブロックチェーンに仮想通貨を置き、それを分散システムで保有すれば、信用供与はお互いにする事が出来、その帳簿が全世界に向けて公開されているので、人それぞれの勘定(財布)にはいくら入っているのか(正確にはいくら使う事ができるのか)が分かるようになっている。いわば全取引履歴のデータが世界中に散らばっていて、皆でシステムを監視しあっているため、特定の人によるシステムのハッキングを防止する事ができる、というわけだ。

このように皆で構築するネットワークがブロックチェーン・テクノロジーなのである。しかし、この相互検証システムに参加するには一定水準のクイズに答える必要があり、強固なシステムも必要である。実際には、こうしたチェーンに参加できる人間は限られ採掘者と呼ばれる特権階級であるとも言える。

【既得権益層からの逆襲】

いや、本邦や米国にもアングラマネーは確実に存在するし、行き場の無くなったマネーは奔流のようにビットコインに流れる。需要は一、世界ベースでみれば巨大としか言いようがない。

だが、この技術が本格化すれば、金融機関の検証システムなど多くの仕事が消える。既得権益からの逆襲は必至である。

一つは、そもそもビットコインはリーガル・テンダー(法定通貨)として認められていない事実から攻める。現実的に、家賃やコンビニの支払いにビットコインは使えない。使うには国家権力によってギャランティーされている法定通貨一、即ち円に替える必要がある。「リーガル」、つまり「法定」の部分がポイントだ。



【実態はアングラマネーの宝庫】

この様に、ビットコインは洗練された技術ではあるのだが、採掘者たちの閉鎖性や、参加者の特異性から問題がある、とされる。

ビットコインの購入者は、自国通貨を信じていない一、あるいは財産没収のリスクのある国の投資家であるとされる。例えば、自国通貨のインフレーション率や資本規制や国際制裁に悩まされている国々でビットコインは人気がある。インフレと厳格な資本規制によって窮地に陥っている一部のアルゼンチン人は、アルゼンチン・ペソの代替通貨として使用しているほか、一部のイラン人は、通貨制裁を回避するために使用している。

経済ジャーナリストやアナリストは、スペインでの流通量とキプロス・ショックに関連性があるという。

キプロスでは、財政難になった際、金融機関の預金口座に課税するために預金封鎖をした事で、キプロス国民が国家権力の及ばない「ビットコイン」へ資産を移す動きが増えた、と大々的に報じられた。しかし、現実的にこのビットコインの最大の保有者は中国人であり、マーケットの最大の投資家である。

金や為替市場が監視下に置かれている事を考えれば、こうした投資がもっとも財産を隠匿しやすいといえる。

こうしたアングラマネーを放置できない中国の当局は、常に規制に走る。その度にビットコインは急落するのだが、残念な事に自国通貨を信頼していない投資家、国民はとて多いので、需要は無くなるらない。

世界の首脳がビットコインを否定し、新しいブロックチェーンを造り、その参加者を金融機関に限る一としたら？ 保険に関するブロックチェーンに参加できるのは保険会社だけとしたら？ 日本でビットコインの換金を禁止したら？

例えば、中国の新しい規制は中国政府のビットコイン取り締まりは、これまでに発表されたICO(インニシャル・コイン・オファリング)の禁止、ビットコイン取引所の閉鎖にとどまらず、マイニング活動やピア・ツー・ピア(P2P)取引までも及ぶ可能性があるという。また中国国内から、米国のビットコイン・ウォレット企業、コインベースなどへアクセスする事も遮断されるようだ。過去、中国のビットコイン・マイニング産業は中国政府の規制が及ばない聖域だと考えられてきたが、マイナーの中には、政府がマイニングも禁止する可能性がある。こうなると、中国という世界最大のビットコインの寄与層が喪失してしまう。

自由主義国も安閑としてられない。自由主義圏の既存権益層は、弁護士や会計士などを駆使しながら、法制度を盾にした規制強化では非常に強力だから、本邦における仮想通貨とは単なる金融機関連合となってしまうリスクがある。結局、新技術を取り込んで単なる金融機関のリストラになるだけかもしれないのだ。三菱東京UFJの数千人の削減策などはその極地であるといえよう。

仮想通貨と既存金融秩序の闘いは、もしかしたら殆どの日本人が気がつかない内に、既存権益温存と単なる規制強化で終わってしまうかもしれない。

ガ・テクニカル

ロケット発射

先週の日経平均株価は週明けギャップアップ。前回のプライマリーサイクル（以下PCとする）ボトム（4月17日）打ちからの週間ギャップアップ同様、ロケット発射となった。しかし週末はロケットマンからの「太平洋上で水爆実験」発言のお返しで勢いを削がれた。日本列島の上空を核を積んだロケットが飛び越えてくるのはさすがに許しがたい行為。やり過ぎだ。

トランプも本土への被害がないからと言って子供のような挑発はいい加減にしてほしい。核を積んだミサイルが失敗して列島に落ちて来たら被害は甚大。

日本の対応も難しくなるが、こういった状況での選挙も間が抜けている。要は憲法9条改正に向けて国民を納得させやすい状況下のタイミングを狙った感もある。

米朝恫喝合戦はもはや収める場所がない。罵りあいだけで留めるならまだまだだが、そのたびに日本列島の上空をミサイルが飛ぶのが常態化するようでは、不安も高まる。

現段階では北朝鮮の挑発に対する市場の反応は鈍くなってきたものの、挑発の度にブレーキがかかるのは否めない。

今週の必押し

目下膠着中だが…

先週の当欄では、目先のユーロ／ドルの下落と共に、逆相関の関係にあるドル指数の上昇を予測。その上でこう述べていた“…チャートパターンの注目したいのはドル指数日足との比較である。ポンドの上伸にもかかわらず、ドル指数は8日の安値を割り込まず、ユーロ／ドルは8日の高値を超え切れていない。これは短期的に前者が逆三尊底、後者が三尊天井になっている可能性がある。ネックラインを放れると、数週間前者は上昇相場、後者は下降相場になるのではないかな。なお、この見通しはそれぞれ8日の価格を突破した時点で否定される”。

20日にFOMCの結果を受け、ユーロは急落するが、前週14日の1.1839やネックラインを割り込む事もなかった。ただ同日のドル指数は14日の92.66を更新。ネックラインを突破した。だが、その翌日の引け値で再度このラインを割り込んでいく。従って、現状は未だ膠着状態と言える。

アストロカレンダー

永井 元

誰にもわからない一、というのが正直なところか。

もしかすると、やらないのではという考えが浮かぶ。

かつて湾岸戦争の時、サッダーム・フセインがクウェートに侵攻したのが7月の日食であった。その後、やるとかやらないとかで論争があつて、やっとケリが着いたのが翌年1月の日食。米国側が一気に仕掛けてあつという間に終わった。しかし、あの時の大統領と今の大統領では手腕が違うかもしれない。

今回も、ケリが着くまで半年ばかりかかるかもしれない。

本稿出稿の頃は、貴金属相場が目先の短期サイクルボトムからどうなっているかがハッキリしているであろう時間帯だ。

日本のチャートは上に向かってるように見える。

何かが起きるとすれば、9月後半かもしれない。

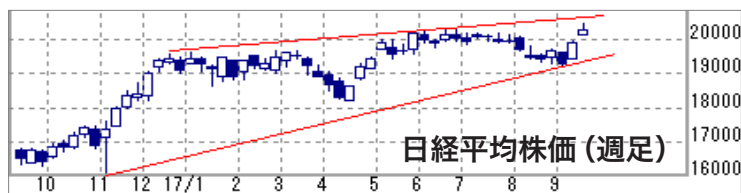
10月月初の満月は円高方向を示唆している。先月の当欄でも述べたが、秋分図も円高の暗示がある。10月後半の新月では、一時的に円安になるかもしれないが、中期的な方向は円高に相違ない。

2017年版フォーキャストを読み返すと、トランプ大統領の行方が細かく記されているが、ここにきて北朝鮮とのやり取りが抽象的だが、まさにその通りという内容で書かれていることに改めて驚かされる。

さて市場に関しては先週「8月8～9日のギャップ（19,970～19,660）に挑戦中。今週このレベルをギャップアップして引ければ完全な強気に戻る。再び過去の強気シナリオが復活。即ち「上値目標21400円±250」。これは昨年6月の高値を更新し、1996年6月以来、ほぼ21年ぶりの高値となろう」と述べた。まさにギャップアップした。

先週の戦略は「今週はまだ（PCの）2週目と計算してウェッジ上限を狙う動きを狙ってドテン買いに転じる。しかし19,000円割れで引ければストップアウト」。先週の週間ギャップ（19933～20122）を埋めて引ければ上昇基調に対してやや懸念される。それ以外は強気一本で攻める場面。

20週前後のサイクルの天井は強気型なら10週目以降に出現する。今週はまだ3週目。上を狙える時間を十分残している。



これは一種の「異市場間ダイバージェンス」。もしそうであれば、今週両相場はラインを突破し、ドル指数で94付近、ユーロドルで1.1650を目指すとする。この流れは数週間継続こう。



アストロカレンダー 10月 永井 元

	天文現象	注目マーケット		天文現象	注目マーケット
1 日			16 月		
2 月			17 火		
3 火			18 水	月赤道通過 水星・木星会合	
4 水			19 木		
5 木	月赤道通過	為替・小豆・ゴム	20 金	新月 秋の土用	全マーケット
6 金	満月 金星／火星最接近	全マーケット	21 土		
7 土			22 日		
8 日	金星・土星90度	全マーケット	23 月		
9 月	月最接近 水星外合		24 火		
10 火			25 水	月最遠	
11 水	火星・土星90度	燃料・小豆・ゴム	26 木	月赤道最南	穀物
12 木	下弦 月赤道最北	穀物	27 金		
13 金			28 土	上弦	
14 土			29 日		
15 日			30 月		
			31 火		

今週の相場風林語録

人の商い羨（うらや）むべからず

人様がうまくいっている相場を羨んでも、なんの得にもならない。

今週の九星★波動

南雲 紫蘭

存外強い展開か

久方ぶりに注目されたFOMC。予想通りバランスシート(約4兆2,000億ドル規模)の縮小が10月から着手される事が決定しました。金利は引き上げなかったものの、資産圧縮は着実にドルの流動性を減らすので、年間で3～5円程度の円安効果があるという推計もあり、日銀が全く動けないのであれば結果としてドル高になる可能性は高いと考えられます。

また、FRBは短期金利を引き上げない一方、長期金利の上昇を誘導するとも考えられ、長期金利の上昇がドル上昇を招くという金利差からもドル上昇には一定の圧力が掛かると考えられます。更に、昨今の世界的に特にアジア地区における地政学的リスクに対するヘッジを考えると、案外ドル上昇は需給面からも期待できる可能性があります。

今回のドル高を一時的と考えられると、思いのほか足元を掬われてしまうかも知れません。

相場指南道場

トレーダーあすなろ物語 (413)

中原 駿

しかし、上野は外形的な偽装も考えていた。

上野は、あえて機関投資家や、現地の有力な金融筋にファンDとの会合を依頼したのである。

昨今では、本邦の金融ディーラーやトレジャラーに会いたがるファンDは少なくなった。

本邦の金融機関がリスクを取らない、そして、最新のトレードに関しても関心が少ないことが表面化してしまっている。

つまり、つまらない相場参加者であることが知れ渡っているのである。

一方、当時はまだまだ本邦の金融機関への期待は大きかった。資金量は多く、資金取引も大きかった。

第六感の 7円幅のレンジ相場か



テクニカルアナリスト 葛城 北斗

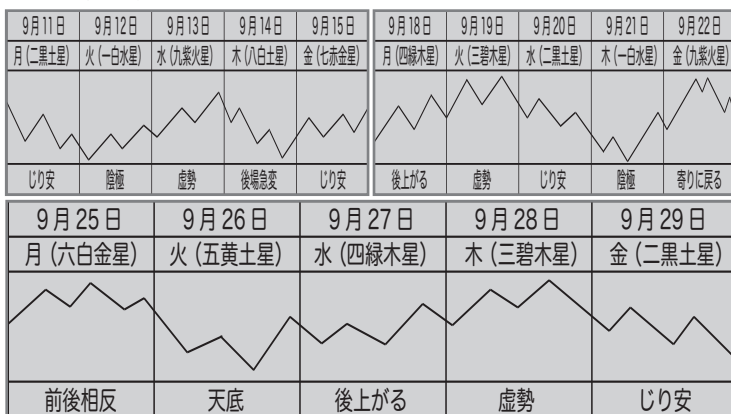
カギ握る1年サイクル位相

先週のドル円相場はFOMC後に急騰して、8月のレンジを突破。今年1～4月の動きは否定された。北朝鮮の挑発と米金融政策の狭間で市場心理は大揺れ。どちらの方向性が正しいのか不明だが、現在は9月8日107円台の年初来安値は4月以降のレンジ下抜けがダマシであったとの認識である。

もう一度7～11週サブサイクルを振り返ると、9月8日安値は6月14日安値から12週目。やや延長したと考えれば、現在は2週目。この限りでは天井を付けるまで、まだ時間は残されている。

ただ、1年サイクルの位相は依然として不明だ。先週次の通り述べた「しかしこのサイクル位相も9月8日に若干延長して1年サイクルボトムを付けたとする見方も浮上」。そのボトムが4月17日か、9月8日かで相場の強弱は大きく変わる。正確なところでは2016年6月24日が5年サイクルの起点。さらにそこから1年サイクルもスタートしていることになるが、次のこのボトムは2017年6月24日±2カ月に到来する予定。4月、9月どちらの安値も許容範囲から若干、外れている。前者をボトムとすれば、既に起点を下回ったことでボトムを付ける来年4月±2カ月まで下降トレンド。それを否定する動きは7月9日の高値114.49を超えることである。一方、9月ボトムなら、相場は非常に強い。少なくとも起点から3～6カ月の上昇期間、強気型のサイクル位相なら5～8カ月まで天

さて、九星高下伝は7日から月盤は《一白水星》。「陰極を意味する一白水星。過去の一白水星は結構立ち直りが早いケースがあります。もはや相場は反転したのかもしれませんが」と先週述べましたが、その通りの展開。案外、株式相場も、為替相場も、強い上昇を見せそうです。



本邦金融機関が変貌するのではないか、という期待も大きく、またそれを実現しようとする動きもあった。

上野などの若いディーラーやトレジャラーである。

新しい取引や新しい仕組みなどに大きな関心があり、まだリスクの範囲内で実験的なトレードを行う意識も高かった。

残念ながらこうした動きは一部にとどまり、さらに東京本社にそれに決していい顔をしていないのであった。

それでも、上野の動きは当時 — 1994年 — としては非常に斬新であったといえるだろう。

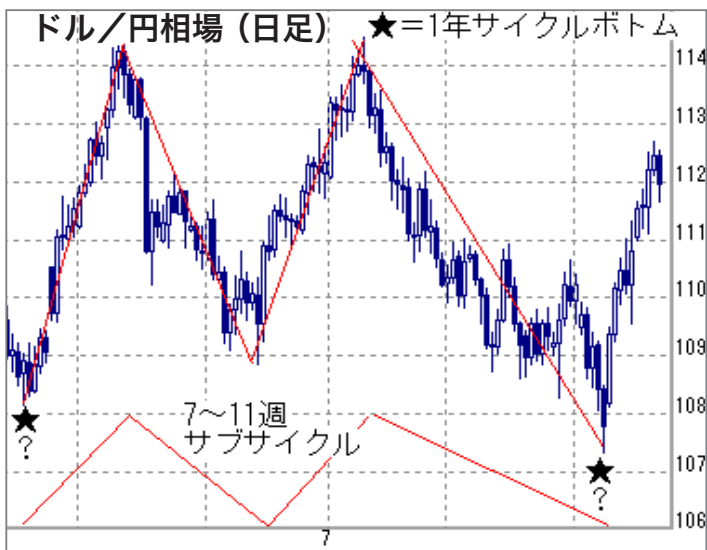
上野は、まず現地の有力投資家となりつつあった国家投資局に訪問することを企てた。

一体、だれに頼んだらいいのか。

上野は通常考えられるライン — 支店長、銀行クラブなどを使うのは意味がない、と考えた。

ここは、あえてブローカーを使ってみよう。

井を付けない。ただし、この位相を否定する動きは7月の高値を超える前に9月3日の安値107.32を下回ることだ。以上がサイクル理論から捉えた判断になる。さらに早い決断をするなら24週移動平均を上抜けて引けて来れば、相場自体が強気に傾く。この移動平均が上向きに転じればおそらく、1年サイクルボトムは9月8日であったことを示す強力なシグナルになる。このケースでは1年サイクルの天井目標値は119.44±1.43。今週は111円台、もしあるなら110円台までの押し目は全て買い。110円割れの引け値はストップアウト。113円以上では利食いを狙いたい。この上昇が最大で114円台で終わるようなら以前紹介した長期に亘るレンジ相場のパターンを観る。



サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

【第58回】NY原油のサイクルについて (8)

毎月発行のMMAサイクルズレポートにおける、NY原油のプライマリーサイクル(PC)は通常で15~23週。これに45週移動平均の値位置も加味すると、この相場が長期18年サイクルボトムをつけたと目される2016年2月11日の26.05ドルは前年8月24日の37.75ドルを起点に24週。そこから昨年8月3日の39.19ドルまで25週と、共に延長PCになっています。

先週のカウントと異なるのはここからで、MMAでは昨年8月安値から同年11月14日の42.20までの15週を次のPCとし、そこから18週目の3月22日の47.01で更に次のPCボトムと定義。ここから6月21日の42.05までの13週で短縮PCボトムをつけていると見ています。従って、現行PCは今週14週目に入っている、という点だけは先週の記述と変わりません。

全てのサイクルが2分割か3分割されるように、PCもハーフPC(8~11週)2つか、メジャーサイクル(MC:5~7週)3つに分割されます。この見方に則って16年2月以降のPCを細かく分析してみました。すると、延長、短縮PC以外は軒並みハーフPCで2分割していると見る事が出来ます。

メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

星回りの今週は重要な時間帯

先週次の通り述べた“水星逆行シャドウ抜けの時間帯と、FOMCの開催時間帯が重なっているのがジオコスミック的に興味深い。株式のみならず、ここは反転ポイントとして注視しておくべきである。残念ながら、星回りで相場の方向性を探る事は難しい。しかし、今回のグランドトラインが影響しているのなら、それは株式市場の高値を示唆する。急落に注意しておきたい。今週は水星が20日に海王星とオポジション(180度)、22日に冥王星とトラインを形成するので、ここが短期的な反転ポイントになりやすいと筆者は考える。また、海王星は24日に火星とオポジションの関係になる。20日と24日は原油相場の動きに注目したい”。

実際、米国株式は20日、日経平均株価は21日に先週の高値をつけている。また、先週のNY金の安値は21日、NY原油の高値は21日に出現した。ドル/円相場の高値も21日だ。これらの値位置から今週反転するのか、継続するのか。

高く仕入れて安値で投げる投資家から
脱却してアクティブブシニアになろう！

- 四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは
- ◎マイナス金利時代に株を持ち続けて成功する秘訣を解き明かす
 - ◎10倍になる株など豊富な実例で銘柄発掘の心得を公開！
 - ◎株式投資の実践編として〈有望銘柄掲載〉！



株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&カンパニー
代表取締役社長

足立 眞一 著

発行：開拓社 定価：1,296円(税込み)

現行PCは8月1日の50.43で45日平均を突破後、これを割り込んで同月31日に45.58まで下落後に反発。先週21日に50.81まで上昇して高値を更新。そのため8月高値は第1ハーフPCの天井で、安値はボトム。現在の高値は第2ハーフPCの天井にして現行PCの天井形成場面であると考えます。従って現行PCのボトムは、通常の日柄であれば4~7週間後に出現する筈です。ただ、仮に長期サイクルが16年2月に底打ちしているのであれば、依然として日柄が若い事から、このPCボトム形成場面は格好の買い場になるという見方になります。



星回りの重要度を考えると、先週よりも今週の方が高い。24日の火星・海王星オポジションで筆者の脳裏に浮かぶのは9月3日の北朝鮮の核実験報道。この日は水星・火星コンジャンクション(0度)の時間帯。火星は「戦」の星である。何らかの「脅威」が出現する可能性を示唆している。

このオポジションに加え、米国時間27日(日本時間28日)の木星・天王星オポジションと米国時間29日(日本時間30日)の金星・海王星オポジションの3つに共通しているのは原油だ。海王星と木星は、原油を支配する星である。また木星は、金星と並んで金融商品と関連性がある星。更に天王星は「ハプニング」と深い関連性を持っている。

更に最新のMMA日経週報でメリマン氏は、28日(日本時間では29日)の冥王星順行の影響についても指摘“これは、世界規模での債務問題や、核破壊の脅威をもう一度強調させよう。ただ協調される脅威は、テロリズム、もしくは母なる自然からのダメージも含まれるかも知れない”と述べている。

以上の事から、方向性は判らないものの、今週(あるいは来週まで)何らかの大きな事象が発生する可能性を示唆している。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアストロロジー info

- 9月25日(月) 今週は過激な動き、出来事、天候異変発生に警戒
- 9月26日(火) ジリ高か、ジリ安基調
- 9月27日(水) 突然の動き、マド開けの市場多々あり
- 9月28日(木) 株式基調変化の兆し(前後3営業日)
- 9月29日(金) 引き続き基調変化に警戒
- 9月30日(土) 実践相場は90%以上が心理に委ねられる
- 10月1日(日) 隣の芝生が青く見え始めたら危険な兆候

フォーキャストのその先へ 2017年ファイナル

【2017年 秋季勉強会】 — 来年に向け、如何に儲けるか —

四半期ごとに年4回開催しているこの勉強会。今年最後の勉強会では、これまでにお伝えできなかった事象も含め、従来よりも2倍「有用」にして「重要」な内容を皆様にお伝えします！

講師	日時
＜第1部＞ マーケットクロスオーバー Vol.2 金融経済アナリスト 神成 厚至	10月28日(土)13:00~17:00
会場	参加費
＜第2部＞ 年後半の儲けの機会を探る 株式会社投資日報社 代表取締役 楠木 高明	貸会議室日本橋清新丹 東京都中央区日本橋人形町1-4-10 人形町センタービル2階 ＜懇親会なし＞14,040円(税込) ＜懇親会あり＞18,040円(税込) ※お振込み手数料等はお客様負担となります。 ※お席に限りがございますのでお早めのお申し込みください。 ※お席に限りがございますのでお早めのお申し込みください。 ※登録完了されたお客様には10月中旬までに受講票とご案内をお送りします。

■ 詳細・お申し込みはこちらから

(株) 投資日報社 電話：03-3669-0278

http://www.toushinippou.co.jp/

東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階

<セミナー>内【2017年秋季勉強会】よりお申し込みください